

みずほCustomer Desk Report 2020/01/23号 (As of 2020/01/22)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	109.91
				GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	109.91	1.1086	121.85	1.3047	0.6847
SYD-NY High	110.10	1.1098	122.00	1.3153	0.6856
SYD-NY Low	109.83	1.1071	121.63	1.3037	0.6827
NY 5:00 PM	109.85	1.1095	121.89	1.3139	0.6844
NY DOW	29,186.27	▲ 9.77	日本2年債	-0.120	1.00bp
NASDAQ	9,383.77	12.96	日本10年債	0.000	1.00bp
S&P	3,321.75	0.96	米国2年債	1.5273	▲0.42bp
日経平均	24031.35	166.79	米国5年債	1.5741	▲0.01bp
TOPIX	1744.13	9.16	米国10年債	1.7682	▲0.52bp
シコ日経先物	23,850.00	80.00	独10年債	-0.2625	▲1.40bp
ロンドンFT	7,571.92	▲ 38.78	英10年債	0.6335	0.45bp
DAX	13,515.75	▲ 40.12	豪10年債	1.1130	▲4.85bp
ハンセン指数	28,341.04	355.71	USDJPY 1M Vol	4.50	▲0.10%
上海総合	3,060.75	8.61	USDJPY 3M Vol	4.93	▲0.04%
NY金	1,556.70	▲ 1.20	USDJPY 6M Vol	5.29	0.01%
WTI	56.74	▲ 1.64	USDJPY 1M 25RR	-1.03	Yen Call Over
CRB指数	180.03	▲ 1.53	EURJPY 3M Vol	5.46	▲0.08%
ドルインデックス	97.50	▲ 0.03	EURJPY 6M Vol	5.85	▲0.13%

東京	ドル円は109.91レベルでオープン。中国政府が新型コロナウイルスに対し全国的に対応すると発表する等、過度の懸念が一服すると一時110.10まで上昇した。その後は材料の乏しい中、上値重く動意の薄い展開が続く、110.04レベルで海外に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、110.04レベルでオープン。新規材料が乏しく109.94-110.04での小幅な推移だった。タボス会議でトランプ大統領が米中第2段階合意に前向きな発言も行ったが反応は薄く109.97レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.3057でオープン。先日の雇用統計に続き、本日発表された一部の景況感指数が予想を上回ったことを受け、月末の利下げ観測の巻き戻しが加速。一時1.3127まで上昇し、1.3122でNYに渡った。(ロンドン・トルジャー 00531 444 179 神田)
ニューヨーク	中国政府が国をあげて新型コロナウイルス感染拡大を最小限にする方針を示したこと、海外市場で円売りが強まり、一時110.10まで戻し、110円ちょうど付近での推移が続く、109.97レベルでオープン。朝方は特段ニュースは見当たらないものの、ドル売りが先行したこと、上値を切り下げた。10時に発表された米12月中古住宅販売件数が予想を上回ったものの、109.83まで下落する。午後は、中国の武漢が出発便の運行と鉄道運行を停止することを発表したものの、WHOが記者会見を開催すると発表していたなか、結局は判断を見送ることを発表したことから、不安払拭とはならず、株式市場がマイナス圏へ下落する動きにドル円は上値の重い展開が続く、109.85レベルでクロスした。一方、イタリアの5つ星運動のデ・マヨ党首が辞任するとの報道が流れ、イタリア政局不安からユーロドルは1.1075まで下落するが、その後は下げ渋り1.1084でオープン。朝方のECB理事会では、インフレ目標と他の目標を切り離すことを発表したものの、特段他に目新しい内容はなく、ドル売りが先行したこと、上値を切り下げた。10時に発表された米12月中古住宅販売件数が予想を上回ったことを受け、月末の利下げ観測の巻き戻しが加速。一時1.3127まで上昇し、1.3122でNYに渡った。(ロンドン・トルジャー 00531 444 179 神田)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 玉井・上地 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

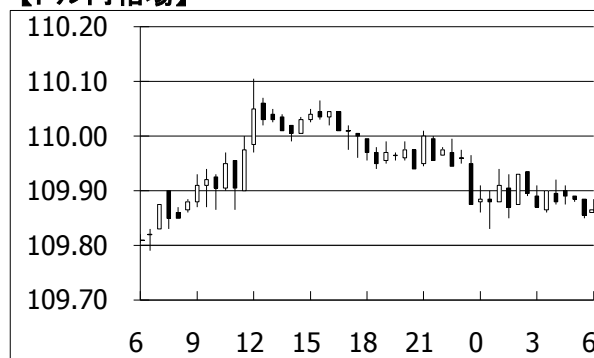
【昨日の指標等】

【当日の指標予定】					
Date		Time	Event	結果	予想
1月22日	08:30	豪	ウェストパック消費者信頼感指数	1月	93.4
	16:40	英	カーニー-BOE総裁 講演	-	-
	22:30	米	シカゴ連銀全米活動指数	12月	-0.35
1月23日	00:00	米	中古住宅販売件数	12月	5.54m
					5.43m

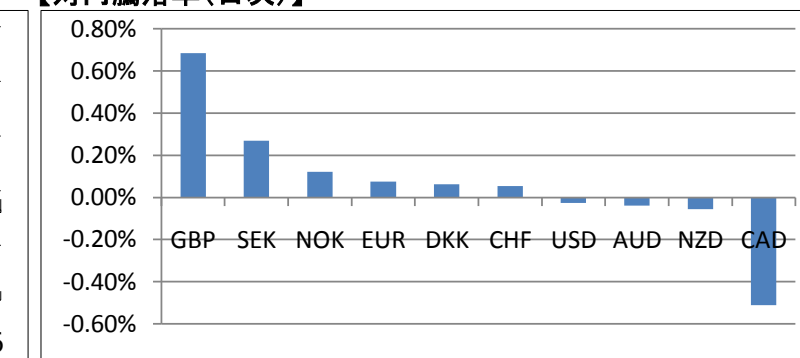
【本日の予定】

Date	Time	Event		予想	前回	
1月23日	08:50	日	貿易収支	12月	-¥152.6b	-¥85.2b
	09:30	豪	雇用者数変化/失業率	12月	10.0k/5.2%	39.9k/5.2%
	21:45	欧	ECB理事会 ECB主要政策金利	-	0.0%	0.0%
	22:30	米	新規失業保険申請件数	18-Jan	214k	204k
1月24日	00:00	欧	消費者信頼感	1月	-7.8	-8.1

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 マイナス金利の副作用

本日ECBが予定されている。政策は現状維持が予定されており、相場への影響は限定的であろう。注目すべきはマイナス金利の副作用についてどのような議論がなされるか、ラガルド総裁はどのように考えているかとなりそう。先日スウェーデン中銀が25bpの利上げを実施し、5年間続いたマイナス金利を解除した。スウェーデンについては19年のGDPは18年から減速、物価上昇率も目標の2%に届いていない状況ではあるが、マイナス金利の副作用の影響を懸念し利上げとの選択肢に至った。今後これを機に他の中銀でもマイナス金利の解除が議論される可能性は出てくる。ECBにおいては前回合意にてメンバーの何人かが「現在の金融政策措置の副作用の可能性に注意が必要だと強調した。」とされており、またラガルド総裁の会見においてもマイナス金利は機能しているとしながらも、副作用はECBの最大の関心事だと述べている。しかしながら欧州の経済状況を鑑みれば利上げはまだ遠いように感じる。また、ECB内では先のパッケージ型緩和において量的緩和が再開されたことの方が反発を買ったという事実もあり、引き締めに動くとしてもまずは量的緩和の打ち止めからではないだろうか。だとすれば、いかに工夫してマイナス金利の副作用を和らげるかということが焦点となりそうである。

足元の欧州の経済指標は市場予想を上回るものも出てきており、外部環境も好転する中、底を打った可能性もある。動きやすい環境のうちに、マイナス金利解除への道筋を示していき、市場に対する示唆を出すということもありそう。もはやマイナス金利の効果よりも副作用の方が大きいのではと言われる中、経済への影響を与えずしてどのようにマイナス金利を脱却していくかは今後の焦点となりそう。(玉井)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ブル	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ブル	ブル	ベア	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ブル	ブル

ブル	ベア
14	6